

人工気象室・実験圃場・下等真核細胞培養室

難 波 千 宮 子

培養育成施設・人工気象室は、1979 年基生研実験研究棟の完成とともに発足した。当時の担当者であった太田行人教授、中島秀明助教授、近藤孝男助手らにより、ユニークで実用性の高い機器の選定や改造、室の設計が行なわれた。その後、1996 年度には西村幹夫教授および林誠助手と難波千宮子技官により、強照度の培養室や、極高温、極低温下での培養環境試験が行えるグロースキャビネットなど、個性的な機器が導入された。これらの機器は現在も多様な実験に用いられており、多くの成果を出している。

実験圃場、下等真核細胞培養室は、1982 年基生研増築棟とともに、藤田善彦教授、黒岩常祥教授、中研一教授、本多八郎前技術課長らの努力で完成した。施設の一部は現在でも当時の設計のまま有効利用されている。1984 年度から 1993 年度まで藤田教授とともに、1994 年度からは西村教授とともに難波技官が施設の管理運営に当たっている。1997 年度からは鈴木恵子技術支援推進員が採用され、更なる施設整備の拡充が図られた。

昨今の流れとして、高等植物であるシロイヌナズナ、イネ、アサガオおよびそれらの形質転換体を大量に栽培する利用者が急増している。また、大型水槽で水生動植物を飼育栽培する利用者が減少した事も挙げられる。このような利用状況に応じて、施設の内容も順次改変している。実験圃場および人工気象室では、P1 温室の増設やシロイヌナズナ用栽培室の拡充を行ってきた。例えば暗室として利用していた恒温恒湿室の一室をシロイヌナズナ栽培用の室として改造したが、この室は利用率が高いため 2004 年度老朽化した空調機を改修した。ファイトトロンも、老朽化に対応して 2002 年度交換を行なった。その一方で、2005 年度には利用者がなくなった実験圃場の 30t,50t 水槽を取り壊し、跡地に P1 温室を設置している。

2003 年度にはシロイヌナズナの栽培施設を中心とした形質転換植物実験施設が新規に設置され、研究所全体のシロイヌナズナの栽培スペースや、それにかかる作業スペースなどは大幅に拡大した。今後も、研究者の利用状況に応じたより使いやすい施設を目指して努力を続けていくつもりである。



2005 年度設置した P1 温室